

薬物乱用のない社会を

習慣性があり、中枢神経系の興奮若しくは抑制又は幻覚の作用を有する物として、覚醒剤、大麻、MDMA、コカイン、ヘロイン、向精神薬等があり、これらの取扱いが法令により禁止又は制限されています。

警察庁

NO! 「脱法ドラッグ」

最近、店舗やインターネット上で、「合法ハーブ」等と称する商品が販売されており、こうした商品を使用した人が、**意識障害、おうと、けいれん、呼吸困難等を起こして、死亡したり、重体に陥る事件が多発**しています。

これら商品は、**覚醒剤、麻薬、大麻など規制薬物の化学構造に似せて作られており、規制薬物と同等の作用を有する成分を含む商品が多く、大変危険**です。また、合法と称して販売する商品の中に**麻薬や指定薬物等の違法な薬物が含まれていた例もありません**ので絶対に手を出してはいけません。

合法と称して販売していたものの 麻薬や指定薬物等違法な薬物であった商品例



麻薬である「通称名:MDPV」が検出され、麻薬及び向精神薬取締法違反（営利目的共同所持）で検挙されたもの

商品名: [Blue Majic] (液体)



指定薬物である「通称名:4FMP」が検出され、薬事法違反（販売目的陳列）で検挙されたもの

商品名: [DIAMOND Rush] (白色粉末)



指定薬物である「通称名:APICA」等が検出され、薬事法違反（販売目的陳列）で検挙されたもの

商品名: [ANARCHY Spider] (植物片)

指定薬物の取締強化

～薬事法一部改正 **平成26年4月1日**施行～

平成26年4月1日から、薬事法の指定薬物について、その「所持」、「使用」、「購入」、「譲受け」が新たに禁止されており、違反した場合には罰則が科されます。

編集・発行 警察庁薬物銃器対策課

規制されている主な薬物

覚醒剤

【形状・俗称等】

主に白色の粉末や無色透明の結晶。無臭でやや苦みがあります。

俗に「シャブ」、「クスリ」、「S(エス)」、「スピード」、「ヤーバー(錠剤型の覚醒剤)」等と呼ばれています。

【使用方法】

覚醒剤の水溶液を注射する方法が一般的ですが、粉末を火であぶって煙を吸う、飲物に入れて飲むといった方法もあります。

【作用】

神経を興奮させ、眠気や疲労感がなくなり、頭が冴えたような感じになります。しかし、効果が切れると、激しい脱力感、疲労感、倦怠感に襲われます。

覚醒剤は、特に依存性が強く、使用を続けると、“壁のしみが人の顔に見える”、“いつもみんなが自分を見て悪口を言っている”、“警察に追われている”、“誰かが自分を殺しに来る”などといった幻覚や妄想が現れるほか、時には錯乱状態になって、発作的に他人に暴行を加えたり、殺害したりすることがあり、このような症状は、**やめても長期間にわたって残る危険性**があります。

また、大量の覚醒剤を摂取すると、**急性中毒により、全身けいれんを起こし、意識を失い、最後には脳出血で死亡**することもあります。



結晶状の覚醒剤



錠剤型覚醒剤「ヤーバー」

大麻

【形状・俗称等】

乾燥大麻（「マリファナ」、茶色または草色）、大麻樹脂（「ハシッシュ」、暗緑色の棒状又は板状等）、液体大麻（「ハシッシュオイル」、粘性のある暗緑色又は黒色のタール状の液体）があります。

【使用方法】

通常は乾燥した葉等をキセル、パイプ、水パイプ等を使用して吸煙しますが、そのまま食べる、溶液として飲むなどがあります。

【作用】

一般的には、気分が快活、陽気になり、よくしゃべるようになると思いますが、その一方、視覚、聴覚、味覚、触覚等の感覚が過敏になり、変調を来したり、現在、過去、未来の観念が混乱して、思考が分裂し、感情が不安定になったりします。このため、**興奮状態に陥って、暴力や挑発的な行為を行うことがあり、さらには、幻覚や妄想等に襲われる**ようになります。

また、毎日ゴロゴロして何もやる気のない状態となる**「無動機症候群」**に陥ることもあります。



大麻草



乾燥大麻

MDMA・MDA

【形状・俗称等】

MDMAは、本来は白色粉末ですが、様々な着色がされ、文字や絵柄の刻印が入った錠剤の形で密売され、俗に「**エクスタシー**」等と呼ばれます。MDAは、白色粉末で、俗に「**ラブラッドラッグ**」等と呼ばれています。

【作用】

MDMAとMDAの薬理作用は類似しており、視覚、聴覚を変化させる反面、不安や不眠などに悩まされる場合もあります。

また、**強い精神的依存性があり、使用を続けると錯乱状態に陥る**ことがあるほか、**腎・肝臓機能障害や記憶障害等の症状も現れる**ことがあります。



MDMA



MDA

向精神薬

向精神薬は、中枢神経系に作用して、精神機能に影響を及ぼす物質で、その薬理作用によって鎮静剤系と興奮剤系に大別されます。

【作用】

向精神薬は、ほとんどが医薬品として流通していますが、医療目的から逸脱して使用すると、感情が不安定になる、判断力が鈍くなる、歩行失調になるなど、**心身への障害が生じます**。



向精神薬（トリアゾラム）

薬事法に規定する指定薬物

【指定薬物】とは、中枢神経系の興奮、抑制又は幻覚の作用を有し、かつ人体に使用された場合に保健衛生上の危害が発生するおそれがある物として、厚生労働大臣が指定したものをいいます。

指定薬物及びこれを含有する物は、薬事法においてその製造、輸入、販売等が禁止されており、平成26年3月末現在、**1,370種類**の薬物が指定されています。

NO! 薬物「運び屋」

「運び屋」への誘いに乗らない

- 薬物犯罪組織等は、知人の紹介、元同僚、学校時代の先輩・後輩等、あらゆる人間関係を利用して「運び屋」になるように誘ってきます。

違法な薬物には絶対に関わらない

- 薬物「運び屋」は、重大な犯罪です。日本でも外国でも重い罪で厳しく処罰されます。

不用意に他人から荷物を預からない

- 他人から預かった荷物でも、自分の携行品の中身については責任を問われます。「知らなかった」、「分からなかった」ではすみません。

薬物乱用の弊害と法規制

1 乱用者自身の精神・身体への弊害

覚醒剤を始めとする薬物の使用により、一時的に頭が冴える、神経が興奮するというような感覚を得たように感じられることがあります。その後、脱力感や疲労感に襲われ、幻覚、妄想といった症状が引き起こされたり、精神のバランスが悪くなったり、ついには、体の主要な器官に深刻な悪影響を及ぼし、最悪の場合、死に至るなど、**精神と身体**の両面が破壊されます。



注射痕

規制される薬物は、中枢神経系に作用することから、使用した時の快感を得たり、薬物の効果が切れた時の苦痛などから逃れるため、薬物による効果を強く求めるようになる「依存性」が形成されます。

また、薬物を繰り返し使用しているうちに同じ量では効かなくなる「耐性」が生じます。

「一度だけ」という好奇心や遊びのつもりでも、薬物の依存性と耐性によって、使用する量や回数はどんどん増えていくという悪循環に陥り、**自分の意思ではやめることができなくなります**。

さらに、使用するのをやめて長期間経った後に、突然、幻覚や妄想等の精神障害が現れるフラッシュバック(再燃現象)が起こることがあります。

2 社会に与える弊害

規制薬物等を使用すると、その薬理作用から幻覚、妄想等の精神障害に陥り、殺人、強盗、放火等の凶悪な犯罪や重大な交通事故等を引き起こすことがあります。また、薬物の購入資金を得るための犯罪も発生しています。



放火



交通事故

3 薬物乱用に対する法規制

薬物乱用は乱用者本人のみならず、周囲の人、更には社会全体に害悪を及ぼす重大な犯罪です。

覚醒剤、麻薬等の使用、所持などは法律により厳しく禁止されており、違反した者には重い刑罰が科せられます。

【罰則の例】

- 覚醒剤の所持、使用…覚せい剤取締法
(単純)10年以下の懲役
(営利)1年以上の有期徒刑 情状により500万円以下の罰金を併科
- 大麻の所持…大麻取締法
(単純)5年以下の懲役
(営利)7年以下の懲役 情状により200万円以下の罰金を併科

各種薬物事犯の検挙状況の推移(平成21年から25年)

区分		年次					
		21	22	23	24	25	
覚醒剤事犯	検挙人員(人)	11,655	11,993	11,852	11,577	10,909	
	押収量	粉末(kg) 錠剤(錠)	356.3 12,799	305.5 8	338.8 39	348.5 223	831.9 178
大麻事犯	検挙人員(人)	2,920	2,216	1,648	1,603	1,555	
	押収量(kg)	乾燥大麻 大麻樹脂	195.1 17.2	144.9 8.8	134.2 28.0	301.8 41.7	161.5 1.1
麻薬及び 向精神薬 事犯	MDMA等 合成麻薬	検挙人員(人)	107	61	77	81	105
		押収量(錠)	85,688	17,326	26,288	3,674	2,135
	コカイン	検挙人員(人)	116	105	82	61	46
		押収量(kg)	11.3	6.9	28.7	6.6	119.6
ヘロイン	検挙人員(人)	15	17	18	30	20	
	押収量(kg)	1.2	0.3	3.5	0.1	3.8	
あへん事犯	検挙人員(人)	28	21	12	6	9	
	押収量(kg)	3.2	3.7	7.6	0.2	0.2	

覚醒剤密輸入事件の検挙状況の推移(平成16年から25年)

区分		年次									
		16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
検挙件数(件)		102	27	63	65	77	164	132	185	120	119
	うち航空機利用によるもの	74	17	40	46	49	127	112	151	81	96
検挙人員(人)		120	40	77	90	97	219	158	216	170	160
	うち暴力団構成員等	21	11	24	16	18	62	31	39	20	30
	うち来日外国人	54	15	43	39	42	97	90	139	106	113

薬物乱用の実態 (薬物乱用者の手記)

覚醒剤乱用者 (30歳代、男性)

「合法」、「脱法」という言葉に隠された危険。



私「何か楽しいことないですか」。A「こういう物あるけど」という日常どこでもある会話の中で、私は覚醒剤と出会ってしまいました。私は、日頃の生活や仕事がうまくいかず、覚醒剤に手を出してしまつたのです。

俗に言う「打つ」、「あぶる」、「スニる(鼻から粉を吸い込む)」と呼ばれる使用法の中で、鼻の穴から覚醒剤を吸引する方法で使用したのです。覚醒剤が鼻腔内に入ると刺激が走り、しばらくすると、体が軽くなり、嫌なことも全て忘れてしまったような感覚に陥ります。

しかし、時間が経つにつれて、経験したことのない、疲労感におそわれると同時に、徐々に不安な気持ちになります。その気持ちを紛らわすために、「追いつ打ち」と呼ばれる覚醒剤の連続使用をしますのです。

私は、覚醒剤に依存するうちに、食欲不振、不眠状態となり、体調を崩すと共に、覚醒剤に対する耐性も付いて、一度に使用する覚醒剤の量がどんどん増えていったのです。

私は、覚醒剤に溺れていく自分に恐怖を覚えたのです。幸い私は、自制が効かなくなる前の早い段階で、警察に逮捕されたことから、覚醒剤依存による禁断症状もありません。ですが、私は、覚醒剤の何とも言えない気持ちよさを味わった以上、一生運覚醒剤の誘惑と戦っていかなければならないことに代わりはありません。

自分一人で覚醒剤を使い誰にも迷惑をかけていないつもりでしたが、結果的に見れば、親、兄弟、友人、知人、職場の仲間など数え切れないほどの人たちに迷惑をかけていることに気づいたのです。この過ちを二度と起こさないように、がんばってまいります。



次に脱法ハーブ、合法ドラッグと呼ばれるものについてですが、私は、学生時代にアダルトショップなどで気軽に購入できるものだと思っていました。

ある日、友人が、10グラム、三千元ほどの安値で手に入れたハーブを巻き煙草のようにして、ハーブを巻いて吸っていたのです。その友人はしばらくすると、突然、白目をむき、大声で叫びだして、嘔吐し始めたのです。

私は、あまりのことにどうしてよいか解らず、果然と友人を見ているしかありませんでした。友人は、時間が経つにつれて、正常な状態に戻ったのです。私は友人に何がどうなったのか話を聞くと「本当に死ぬかと思った。」と合法ハーブなどと売っている薬物の恐ろしさを教えてくれました。

私から見てもあのようなことになる薬物が「合法」、「脱法」という言葉に隠れてだれでも気軽に買えるということは、ある意味、覚醒剤やマリファナ等の違法薬物より危険だと感じたのです。

早くこのような薬物を取り締まる法律を作るとともに、未成年者などにこのような実態を広め、手をださせないようにすべきだと強く思います。

最後に、今まで話した内容は、私の実体験に基づいて書いたものですが、誰かの目にとまっとき、こういった薬物について考えてくれたらうれしく思います。

覚醒剤乱用者 (30歳代、男性)

逮捕され、大切な時間を得て思った。一瞬を一生を生きていく。



SNSで知り合った好みの人の言葉に流され知ってしまった悪魔の粉。

興味本意というよりは寂しさを埋めたかった。後戻りがまだできたの次に知り合い交際することとなった相手とまた悪魔の粉に魅入られ戻れない深い闇に墮ちてしまった。

仕事、クリーンな友人との付き合い、趣味を怠ることなく熟しながら毎日過ごしていたが、実際の月日が流れるごとに相手に悪魔の粉を失いたくないという思いが強くなり、相手のペースに相手の思惑にコントロールされていた。

いつの日からか回数も使用量も増えていった。当時はそれを疑問に感じることもなかった。

当たり前のこととしか思わなくなっている自分があった。仕事は手を抜かずにはいたが、友人と距離が出来始め、趣味

を熱すこともなくなり、交際相手と悪魔の粉が唯一の心の支えとなっていた。

鍛え上げた筋肉が見る見る落ちはじめ、交際相手から音信不通になると発狂しそうな苦悩に落ち、この世から消えてしまいたいという思いに駆られた。

それらを埋めるために悪魔の粉を手に入れたりもしたが、苦悩は消えることがなかった。

笑みもやがて消え、日々思うことは交際相手と悪魔の粉のことばかり。

不安な感情はどんどん高まるばかり。

何もかもが嫌になった。

貯金も底をつきはじめた。

菌の具合も悪化しはじめた。

身も心もなにもかもが「ガタガタ」と音をたてて崩壊しはじめた。

そこに「逮捕」という救出。

手錠が、取調べが、拘留所での時間が本来の自分を取り戻すための大切な時間であり、自分の弱さと向き合うつらくもあり、重要な時間であった。

一生忘れられない時間。



今、当時は思い返ししながらペンを走らせている。

情けない自分自身を笑っている自分が居る。

だが、完全に断ち切れている訳ではない。

交際相手の顔がフラッシュバックする度に、未だ罰を喰っていない相手がにくてたまらない。

悪魔の粉を知る前の生活を取り戻したい。

戻りたいという後悔の念に駆られる時がある。

その時は逃げることなく、自分と向き合っている。

苦しくてつらい作業ではあるが、避けてはならない。

私に生涯つきまとう心の病と捉え、向き合っている。新たな時の流れをようやく温かく感じられるようになってきた。

一度死にかけた命を救ってくれた刑事の皆様、一度は離れたにも関わらず優しく包んでくれる友人、人にも言えない負

れみを抱えながらも向き合ってくれる家族が居るから、私は負けはしない。これからも闘い、一瞬を一生を生きていく。